

相生市で採集したカミキリムシ

米村和繁, 米村和也, 米村理子

相生市内で採集したカミキリ虫と市内であつめた材より羽脱したカミキリ虫の記録を發表いたします。

期間は1984年11月より1985年8月まで、記録(材)1部以前に採集したものも含まれます。

採集者は3人で、期間も短かいので完ぺきとはいえません。今後も採集をつづけますが、期待がもてると思います。100種目標に進めていきたいと思っています。(他の採集者のものは含まれていません)

採集者: 米村和繁, 長男・和也, 長女・理子

1984年11月より1985年8月まで、材より羽脱したカミキリ

- (1) こなら
タカサゴシロカミキリ、ミドリカミキリ、エグリトラカミキリ、ヤツボシハナカミキリ、キイロトラカミキリ
- (2) ひめやしゅぶし
キオビトラカミキリ、エグリトラカミキリ、クモガタケシカミキリ、ヤツボシハナカミキリ、ヒメクロトラカミキリ、タカサゴシロカミキリ、アトモンマルケシカミキリ
- (3) けやき
エグリトラカミキリ、キンケトラカミキリ、ナガゴマフカミキリ、クワサビカミキリ、アメイロカミキリ、キスジトラカミキリ、
- (4) にせあかしや
エグリトラカミキリ、クモガタケシカミキリ、ワモンサビカミキリ、アトジロサビカミキリ、アトモンマルケシカミキリ、シラオビゴマフケシカミキリ
- (4) あかめがしわ
ヒトオビアラゲカミキリ、ミドリカミキリ、キイロトラカミキリ、エグリトラカミキリ、アトモンサビカミキリ、アトモンマルケシカミキリ、ケシカミキリ、ヤハズカミキリ、アメイロカミキリ、クモガタケシカミキリ
- (5) おおばやしゅぶし
ヤツボシハナカミキリ、エグリトラカミキリ、ヤハズカミキリ、カタシロゴマフカミキリ、タカサゴシロカミキリ

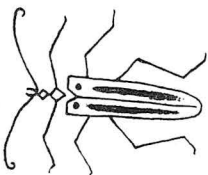
- (6) はんのき
ヨツスジトラカミキリ、ヒメクロトラカミキリ、ナガゴマフカミキリ
- (7) むくげ
アトジロサビカミキリ、ラミーカミキリ
- (8) すぎ
ヒメスギカミキリ
- (9) やなぎ類(生木)及び 枯枝
クワカミキリ
- (10) えのき
アトジロサビカミキリ、キスジトラカミキリ、アトモンサビカミキリ
- (11) かきのき
アトモンケシカミキリ、アトジロサビカミキリ、アトモンマルケシカミキリ、ヨツスジトラカミキリ、ナガゴマフカミキリ
- (12) のぶどう
アカネトラカミキリ、アカネカミキリ、シロオビカミキリ
- (13) くわ
ニイジマチビカミキリ
- (14) くり
ヒメクロトラカミキリ、ヒメヒゲナガカミキリ、アトモンマルケシカミキリ、ミドリカミキリ、ヤツボシハナカミキリ、ケシカミキリ、ヤマトチビコバネ、タカサゴシロカミキリ、エグリトラカミキリ
- (15) くさぎ
アトモンマルケシカミキリ、アトジロサビカミキリ、ケブトハナカミキリ、クモガタケシカミキリ、ヨツスジトラカミキリ、ナガゴマフカミキリ
- (16) のぐるみ
ミドリカミキリ、キイロトラカミキリ、ヨツスジトラカミキリ、ヤツボシハナカミキリ、ピロウドカミキリ、タカサゴシロカミキリ、シラホシカミキリ、エグリトラカミキリ
- (17) やまはぜ
ヨツキボシカミキリ、アトモンマルケシカミキリ、エグリトラカミキリ、ナガゴマフカミキリ、ヒメクロトラカミキリ、キスジトラカミキリ

- (18) やまもも
ヨツスジトラカミキリ
- (19) うめ
アトモンマルケシカミキリ、ヨツスジトラカミキリ
- (20) あべまき
ナガゴマフカミキリ、ヤツボシハナカミキリ、キ
イロトラカミキリ、エグリトラカミキリ、ミドリ
カミキリ、セミスジコブヒゲカミキリ、シラホシ
カミキリ
- (21) かくれみの
アトジロサビカミキリ、ヨツスジトラカミキリ、
- (22) あらかし
ヒメクロトラカミキリ、ズマルトラカミキリ、ミ
ドリカミキリ、ヤハズカミキリ、ケシカミキリ、
エグリトラカミキリ、ナガゴマフカミキリ、アト
モンマルケシカミキリ
- (23) ひめりんご
ルリカミキリ(生木)、エグリトラカミキリ(枯枝)
- (24) ねむのき
ホタルカミキリ、アトジロサビカミキリ
- (25) のぐみ
ヤハズカミキリ
- (26) いぬびわ
トガリシロオビカミキリ、アトジロサビカミキリ、
キボシカミキリ、アトモンマルケシカミキリ、タ
カサゴシロカミキリ、クモガタケシカミキリ
- (27) 山ざくら
カタシロゴマフカミキリ、ナガゴマフカミキリ
- (28) 山ふじ
ワモンサビカミキリ、ケシカミキリ、アトジロサ
ビカミキリ、カッコウメダカカミキリ、トガリシ
ロオビカミキリ、アトモンマルケシカミキリ、ナ
ガゴマフカミキリ
- (29) 山はぎ
エグリトラカミキリ、アトモンマルケシカミキリ
アトジロサビカミキリ、ホソキリングカミキリ?
(さなぎをありによつてころされる)
- (30) いろはもみじ
ホタルカミキリ
- (31) にれげやき(室津にて採集)
ズマルトラカミキリ、ケシカミキリ
- (32) やまならし
クワカミキリ
- (33) くず
トガリシロオビカミキリ、ワモンサビカミキリ、
アトジロサビカミキリ
- (34) うるし
タカサゴシロカミキリ、ナガゴマフカミキリ、ヤ
ツボシハナカミキリ、クモガタケシカミキリ、ア
トモンマルケシカミキリ
- (35) 黒まつ
ツヤケシハナカミキリ
- (36) 赤松
ツヤケシハナカミキリ、マツノマダラカミキリ、
セミスジコブヒゲカミキリ、ナカバヤシモモブト
カミキリ
- (37) はちく(竹)
ベニカミキリ、ハイイロヤハズカミキリ
(材で生木と記入していないものは枯れたもの)
- 相生市内で採集したもの
- 1 ○アカネカミキリ
 - 2 アカネトラカミキリ
 - 3 アカハナカミキリ
 - 4 ○アトジロサビカミキリ
 - 5 ○アトモンマルケシカミキリ
 - 6 ○アトモンサビカミキリ
 - 7 ○アメイロカミキリ
 - 8 イタヤカミキリ
 - 9 ○エグリトラカミキリ
 - 10 オオヨツスジハナカミキリ
 - 11 ○カッコウメダカカミキリ
 - 12 ○カタシロゴマフカミキリ
 - 13 ○キイロトラカミキリ
 - 14 キクスイモドクカミキリ
 - 15 キクスイカミキリ
 - 16 ○キボシカミキリ
 - 17 ○キンケトラカミキリ
 - 18 ○クワカミキリ
 - 19 クロカミキリ
 - 20 ○クワサビカミキリ
 - 21 ○ケシカミキリ
 - 22 ○ケプトハナカミキリ
 - 23 ゴマフカミキリ
 - 24 シロスジカミキリ
 - 25 ○シロオビゴマフケシカミキリ
 - 26 ○シロオビカミキリ
 - 27 ○ズマルトラカミキリ
 - 28 センノカミキリ
 - 29 ○セミスジコブヒゲカミキリ
 - 30 ○タカサゴシロカミキリ
 - 31 チャイロホソヒラタカミキリ

- 32○ ツヤケシハナカミキリ
- 33○ シラホシカミキリ
- 34○ トガリシロオビカミキリ
- 35○ クモガタケシカミキリ
- 36 ゴマグラカミキリ
- 37○ ナカバヤシモブトカミキリ
- 38○ ナガゴマフカミキリ
- 39○ ニイジマチビカミキリ
- 40 ニセリングカミキリ
- 41 ニセシラホシカミキリ
- 42 ○ハイイロヤハズカミキリ
- 43 ○ヒメスギカミキリ
- 44 ヒメリングカミキリ
- 45 ○ヒトオビアラゲカミキリ
- 46 ○ヒメクロトラカミキリ
- 47 ヒメコブヤハズカミキリ
- 48 ヘリグロリングカミキリ
- 49○ ベニカミキリ
- 50○ ホタルカミキリ
- 51 ホソキリングカミキリ
- 52○ マツノマグラカミキリ
- 53○ ミドリカミキリ
- 54 ムナクボカミキリ
- 55○ ヒメヒゲナガカミキリ
- 56○ ヨツキボシカミキリ
- 57○ ヨツスジトラカミキリ
- 58○ ヤツボシハナカミキリ
- 59○ ヤハズカミキリ
- 60○ ヤマトチビコバナカミキリ
- 61○ ラミーカミキリ
- 62 リングカミキリ
- 63○ ルリカミキリ
- 64○ ワモンサビカミキリ
- 65 ノコギリカミキリ
- 66○ ピロウドカミキリ
- 67 ハンノキカミキリ

(○印は材より羽脱した種)

(S.29: Kazushige Yonemura 相生市)

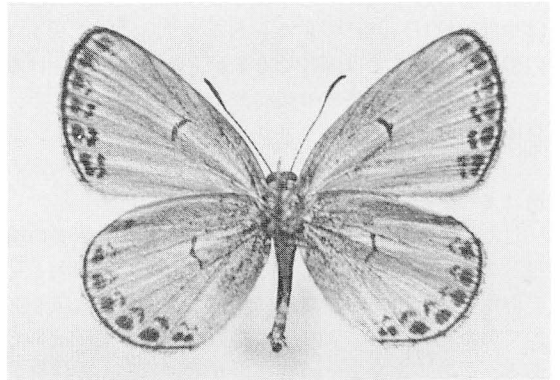


ヤマトシジミ斑紋異常個体を採集

高柳 栄一

1986年9月25日、揖保郡揖保川町馬場において本種のパイパン型1♂を採集したので報告する。当日は当地にて、シルビアシジミの産卵を観察中に採集したもので、飛翔中は白っぽい印象を受けた。なお、写真撮影は木村三郎氏にお世話になった。

(S73: Eiichi Takayanagi 姫路市)



表紙の説明

水草に翅を休めるベッコウトンボ

相坂耕作 文
斉藤和郎 写真

絶滅寸前であり、現在近畿地方では兵庫県下でしか生息していない珍しいトンボ。シオカラトンボくらいの中型トンボで、雄は黒褐色、雌は淡褐色、翅の斑紋がベッコウ色をしている。

本種は、植生の変化、水質の汚濁にも非常に弱く、わが国では最も絶滅の可能性の高い種類とされるため強力な保護対策が必要とされている。

県下でも10年余り前までは、加古川流域などの広い地域で見られたが、開発や農業の影響で、ほぼ全滅状態となった。しかし幸いにも東播磨地方の小野市付近で現在もかなりの飛翔がみられることは喜ばしいことと思う。

小野市付近に生息するベッコウトンボは、4月中、下旬から羽化が始まり、6月中旬頃まで成虫が見られる。最盛期は5月上旬頃。なおこの産地もいずれ埋立て、水質変化またヤゴが生息する特殊な環境（池底の砂や泥が適当にあるかなど）絶滅する可能性に枚挙にいとまがない。